

—— 総合情報処理センター発足に寄せて ——

前センター長吉田 博元工学部教授のご苦闘を思う

前情報処理センター運営委員会委員長 柴原 正雄

平成元年12月28日、「金大に総合情報処理センター」との大見出しで、かねてからの念願でありました総合情報処理センターが平成2年度概算要求に認められた旨が新聞で報じられました。同記事では、「大蔵原案に対する28日までの復活折衝で、金大が主要要望事項としていた学内共同の総合情報処理センターが金沢市角間町の新キャンパス内に新設されることが認められた。大学全体の学術情報を処理、管理する拠点であり、情報サービス機能がさらに促進されることになる。」と記されています。越えて、1月に入って早々に、センター長のご苦労をお願いした高嶋教授から、「総合情報処理センターの要求が概算要求に通ったようです。これまでのご努力は、どうも有難うございました。」と、はずんだお声の電話を載きました。

本年4月から正式に省令化され、総合情報処理センターが設立されましたことは誠におめでたく、LANの敷設等と共に、学内外にわたっての情報処理を総合的、かつ体系的に全学の中核として行う機能的なセンターとして、角間キャンパスの充実歩調と共に、否、これまでの遅れを挽回するテンポで、今後ますます発展充実されることをお祈り致したく思います。

日一日と、総ての面で情報化が進む社会状況を考えましても、学術研究面に対するセンターの機能に止まるものでないことは勿論、全学生に対する一貫した情報処理教育が部局の垣根を越えて定着されねばならないでありましょうし、また、この機会に専門分野や業務内容を問わず、全学を挙げて、情報処理に関する認識を更に一層新らたにさせることも、申すまでもなく大切であろうと存ずる次第です。

昭和64年度概算要求で、センターの実現を是非にもとお願いしておりましたことは、当時の金沢大学総合情報処理センター構想検討委員会、同設立実務委員会委員長としても切なるものがあり、その状況はセンター広報12巻1号(1988/12)に、そして平成2年度へ向けての昨年3月末までの任期中における経過は広報13巻1号(1989/12)、それぞれ述べさせて載しましたが、私の情報処理センターにかかわって参りました昭和61年度から退官までの3ケ年間、大変お世話になりました前センター長の吉田 博元工学部教授が、同じく退任の挨拶として「総合情報処理センターを目指した苦闘の6年間を振り返って」と題し、述懐されている記事は正しく総合情報処理センターを目指してご努力載しました6年間にわたる貴重なご苦労の足跡でありまして、センターの今日あるは、吉田先生の並々ならぬご尽力の賜物によるの外はないと思います。昭和58年度から3年間は、時あたかも総合移転の問題に当り、時期としては大変な時でありました。昭和61年からの3年間のご様子を直接良く知る私と致しましては、本当に、もう1年早く、吉田先生のご在任中に総合情報処理センター実現の吉報を得ることの出来なかったことを、心から慙愧に耐えなく思っている次第であります。吉田先生、本当にご苦労様でございました。先生のご努力は、高く評価されることと信

じます。どうか、皆様方、もう一度、広報13巻1号、9ページの記懷をご覧載き、先生の尋常ならぬご熱意溢れるご尽力を銘記して載きたく存ずる次第であります。

総合情報処理センターの今後の運営には、また何かと問題なきにしもあらずではありましたが、今日までの経緯も正しくご認識、ご理解載き、小異を捨てて大同につき、各位のご配慮とご協力によりまして、新生基幹大学のセンターとしての金沢大学総合情報処理センターが、新センター長を中心に一層の発展充実され、ひいては金沢大学の全部局が生々発展されますよう、僭越ながら、ここに一言お願いを申し上げ、またお祈り致す次第であります。なお、最後になりましたが、業務の厳しさが一段と増すでありましょうセンター長はじめセンター教職員の方々、及びセンター運営に直接ご関係の委員各位の、ますますのご自愛ご健勝を心からお祈り申し上げます。

(平成2. 10. 5 現石川職業訓練短期大学校長)